

箱根をプロデュース!

箱根町・企業・学校とつながりで、深い学びと地域貢献をめざす

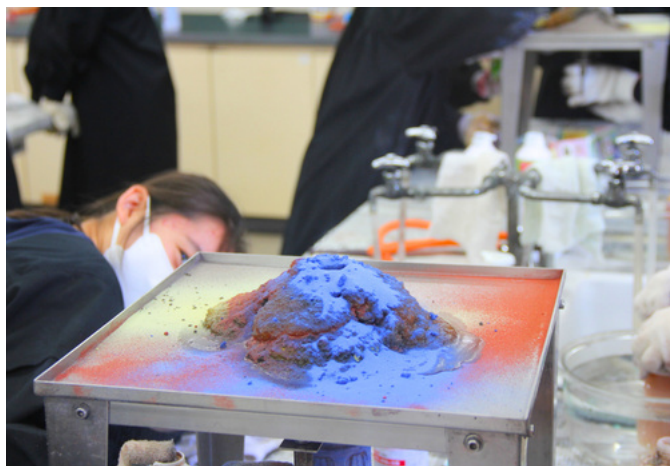


函嶺白百合学園

箱根町は「サステイナブル・ツーリズム」を掲げ、長い歴史と美しい自然を舞台に、世界中からの観光客を魅了する観光地です。この土地が自分たちの世代以降まで、自然と文化を守り、ずっと愛され続ける場所となるように、Z世代からα世代の生徒たちが、学びと、町への提案を続けています。

箱根を知る 理科、社会、国語、外国語、美術…教科を「体験」で学ぶ

箱根の植物観察は生物の学びに、火山の実験は地学に、箱根の宿場町や関所などは歴史に、魅力を伝える言葉を国語と外国語(英語と中国語)で探しながらプレゼンテーション技術を磨き、感性を生かしたパンフレット作りや、美術館のキュレーションについては、美術に…学びを深めています。



箱根に提言 観光客にインタビュー

大涌谷、箱根湯本、学校のある強羅周辺で、外国人観光客にインタビューをします。質問の内容も自分たちで考え、動画編集をし、箱根町にレポートで提言します。インタビューは英語や中国語(総合学習として学習)で行います。



箱根を宣伝 町の観光パンフレット作成

箱根町は観光地なので、沢山のパンフレットがあります。ただ、中学生のみずみずしい感性を生かした視点で箱根をアピールします。

前年度作られた生徒のパンフレットは、観光所などに置かれた他、町のパンフレットのページにも採用されました。



箱根町で生まれ育った生徒でなくても、毎日の学校生活を送る場として、箱根を知って、箱根に親しむ素地を作ります。中学1年生の時には、湿生花園やジオパークに出かけ、専門家に説明を受けるだけでなく、火山の実験を理科室で行います。中学2年生では、藁を叩くところから始めて、わらじを編み、自分で編んだわらじを履いて、箱根旧道を歩き、関所まで。古の人が歩いた道を、肌感覚で体験し、現代に伝えていきます。

箱根湿生花園 (生物・環境)



仙石原の箱根湿生花園では、湿地帯や高山植物など、日本の多くの植物について知ることができます。

特徴

中1では、理科的な学びを土台に、箱根の環境を知るといふ総合学習に繋げています。教科の知識と、実際の体験、そして論理的思考力を繋げていくのが、当校の総合学習の特徴です。

火山実験 (地学)

水槽実験 / 廃油実験 (生物・環境)



ジオパークから講師を招いて、理科室で火山実験を行います。火山噴火のしくみなどを、理科実験で確かめます。

また、水槽実験、廃油実験など、環境実験も行っています。



観光地 箱根を知る 国際色豊かな開かれた地域へ (外国語)

箱根は、その自然や歴史の魅力に魅了されて、多くの外国人が訪れます。海外の学校や企業関係者の、教育ツアーなども行われていると聞きます。オーバーツーリズムや、外国人観光客への配慮などの課題を乗り越え、サステナブルな観光地へ。中学生らしい視点で切り込み、箱根町に提言します。



質問は生徒が考え、英語や中国語に訳し、グループで練習して臨みます。グループ内で担当を決め、録画をし、最終的に動画編集を行います。字幕も自分たちで付けます。練習には、外国語科の教員も協力しています。



動画例
QR CODE

平成16年の学園報の記事

遅くとも平成16年 (2004年)から

私たちのこのプログラムは、少なくとも20年前から行われていました。箱根の自然を知り、火山実験を行い、わらじを編んで、履いて、旧街道を歩く。総合学習が教科と繋がり、体験として行われ続けている伝統を、毎年学年を担当する教員が引き継いで来ました。

近年では、それをさらに課題解決やアウトプットに繋げていくという視点を持ち、発展させています。時代が変わって社会課題が変わっていく中、中学生らしい解決策を模索していきます。今時の生徒らしく、ICTを使いこなして、動画やデザイン作成、町の関係者などへのプレゼンも行います。これらの学びは、高校の探究学習の土台ともなっています。

平成16年12月18日

函南白百合学園報

第112号 (6)



箱根を体験する わらを打ち、わらじを編み、旧街道を歩く (社会)

わらを分けていただいて、箱根町立郷土資料館の協力を得て、わらを打ち、わらじを編み、旧街道を歩きます。わらじを通して得る足の感触、木々の間を歩く空気、周りの植物…昔の人も感じたであろう感覚を、五感を研ぎ澄ませながら、箱根関所まで歩きます。大人も魅力的に感じるこの取り組みに、パンフレット制作のご指導を下さる美術大学の先生も、蓑や笠を手に入れて生徒に着せてくれるなど、さまざまな協力を得て、子供たちの体験となっています。

わらじ作り



左: わらを叩いて繊維を柔らかくします。叩きすぎると切れてしまいます。
右: 荷造りロープを芯に、編んでいきます。



右: 美大の先生がわざわざ購入したという蓑と笠。生徒たちは、「レインコート」と違う感触に、興味津々。

わらじを履いて歩く



箱根の関所がゴール!

ここでも、「入り鉄砲に出女」など、関所の役割や逸話を歴史として学びます。

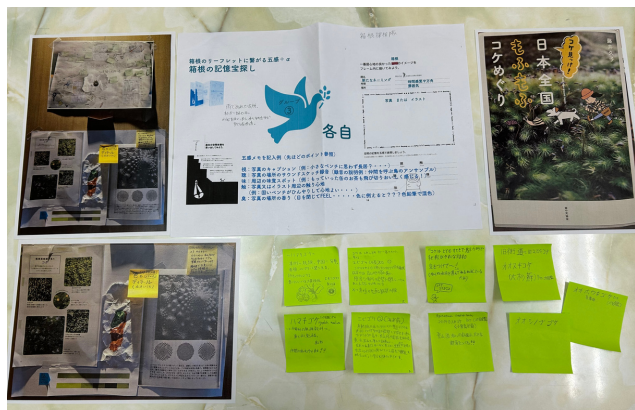


土や石畳を、わらじを履いた足裏の感触を確かめながら歩きます。わらじが解けてしまったら、直しながら進んでいきます。

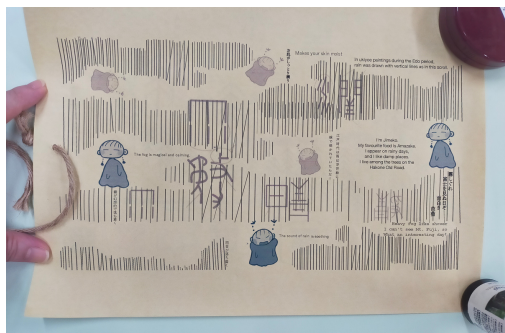
箱根をPRするパンフレット作成

自分たちの体験を、パンフレットに (美術、外国語)

わらじを履いて、旧街道を歩く。以前はそこまでの体験でした。今は、その体験を元に、箱根町のパンフレット作りまで手掛けます。顧客のペルソナを意識し、テーマを決め、キャラクターも考えました。苔の冊子や絵巻物など、個性豊かなパンフレットが出来上がりました。



パンフレットのコンセプトやデザインについて、自分たちで付箋を使い、資料を集めて決めていきます。



そして観光パンフレット採用に

箱根町の観光課や教育委員会の方などを招き、プレゼンテーションをしたところ、大変高い評価となり、観光案内所に数量限定で置いていただけるだけでなく、箱根町の観光パンフレットに載せていただくこととなりました。



英語版と日本語版に載りました

